

# Mobile C-arm

## 経皮的椎体形成術と OPESCOPE ACTENO FD typeの有用性 増え続ける脊椎椎体骨折への挑戦！



密川 守 先生

輝栄会 福岡輝栄会病院 整形外科<sup>1</sup>  
輝栄会 福岡輝栄会病院 放射線科<sup>2</sup>  
密川 守<sup>1</sup>, 山口 博司<sup>2</sup>

### 1. 施設紹介

当院は1961年(昭和36年)に『中村小児科医院』として開設され、その後規模の拡大とともに1997年(平成9年)に『福岡輝栄会病院』と名称変更。2019年(令和元年)に現在の福岡市東区千早地区の新病院(259床)へ移転した。福岡市東区は、福岡市の副都心として近年急速に発展しており、福岡市行政区では最大の人口を誇り、なおかつ人口増加傾向が続いている。その中心地域が千早であり、千早駅前にある当院は急性期・療養期・回復期リハビリ・地域包括の各病棟を有するケアミックス型の病院として、急性期から地域に戻るまでの患者を一貫して受け入れている。また、東区における2次救急病院の中心的役割も担っており連日救急患者が搬送されてくる(Fig.1)。

### 2. 当院の整形外科紹介

当院では3名の整形外科専門医(一般整形外科担当2名, 脊椎担当1名:筆者)と13名の放射線技師で、手術を中心とした急性期治療を行っている。

地域の中核救急病院であることから、連日多数の救急患者が搬送されてくるが、その中でも高齢化社



Fig.1 当院外観

会を迎えて骨脆弱性骨折(大腿骨近位骨折や脊椎椎体骨折等)の搬送が著増している<sup>1)</sup>。我々は、高齢者の骨折については、『一日でも早く日常生活に戻っていただき、寝たきりを防ぐ!』を合言葉に、早期手術、早期リハビリを心がけて治療に挑んでいる。

### 3. 増え続ける脊椎椎体骨折に対する 当科での取り組み

我が国の総人口(2021年9月15日現在推計)は、前年に比べ51万人減少しているが、65歳以上の高齢者人口は3,640万人と、前年(3,618万人)に比べ22万人増加し過去最多となっている。総人口に占める高齢者の割合も29.1%と、前年(28.8%)に比べ上昇し、過去最高となった<sup>2)</sup>。急速な高齢化が進む中、本邦における40歳以上の骨粗鬆症の有病率は約1,280万人といわれている。高齢化社会においては、認知症や脳血管疾患と並び、関節疾患や骨折、転倒などによる運動器障害がしばしば問題となる。

骨粗鬆症による脆弱性骨折の代表である脊椎椎体骨折は、その年間発生率が大腿骨骨折の約2倍と報告されており<sup>3)</sup>、累積発生率は70歳代男性で10.8%、女性で22.2%とされ、70歳以上の女性の五人に一人は椎体骨折を経験していることになり<sup>4)</sup>、当院救急外来にも転倒等による高齢者の椎体骨折が連日救急搬送されてくる。

一般に脊椎椎体骨折の治療は保存的治療を適応する医療機関が多いが、保存治療では1-2週間のベッド上安静、さらにその後2-3か月にも及ぶ入院治療が必要となる。加えて10-20%の割合で偽関節や遅発性麻痺に進行する危険性があると報告されている<sup>5)</sup>。

高齢の患者では入院が延びれば延びるほど認知機能の悪化やADLの低下を併発しやすいため、『高齢者こそ早期に元の生活に戻っていただく』ことが重要と